

平成十二年三月十四日第三種郵便物認可 平成三十年六月一日発行
 龍 寶〔毎月一回一日〕 第十九卷 第六号 通巻二二号



月刊書道誌

Ryuhin

NO. 222

2018-

6



凝思寂聴(鮑照)

69×69cm



倪元璐 行書七律詩扇

倪元璐

明。万曆二一—崇禎一七(一五九三—一六四四・五二歳)上虞の人。字を玉汝、鴻宝と号した。黄道周・王鐸と同年の天啓壬戌(一六二二)の進士で、累進して礼部尚書兼翰林院學士になった。崇禎末年燕京陥落のとき、白絹をもって自らくびれ死に、殉国の忠節を称せられた。詩文をよくし書画を巧みにした。特に書の剛毅勁抜の筆致は、鬱勃たる氣概を窺うにたるものがある。「倪文貞公遺集」がある。

表紙写真 水滴 弘道銘文

主幹星 弘道

四月十九日に三重県展の審査があり初めて三重の地を踏みました。折角なので伊勢神宮を訪問したく思いM氏の適切な案内をいただき大変清浄な気分になさせていただきました。

丁度夕刻にかかったこともあり、境内は人も少なく静謐な雰囲気。心身ともに洗われたようでした。

その境内は当然人の手を加えられ造られているが、自然をあそこまで生かした造りは神技としか表現出来ない世界でした。尊崇の気持の顯れがそうさせるものと感じ入りました。

「天地玄黄、宇宙洪荒」の千字文の自然に対する畏敬の念と「書譜」の書出しの「夫れ古より書を善くする者、漢魏に鍾張の絶有り、晋末に二王の妙を称す」

鍾は鍾繇、張は張芝、二王は王羲之、王献之であるが、書の正統な源流を指しているように思う。五十鈴川の瀬の動き、波の音響は心地よい自然そのものだが、一度自然の働きが強く出れば猛威を奮うことになり、弱く働けば渾水にもなるだろう。

書も人間の感情で強くも弱くもなる。然しここで大切なのは、自然の流れも、人間の心も元に戻る作用が働かなければ駄目なのではないだろうかということである。

現代の書は、内面より、外に向っての誇張が強くなり過ぎているのかもしれない。感情の起伏はあって当然だが、戻る禅定の世界をしっかり心持として養っておかないといけいかなと痛感して帰路につきました。

莎徑泥深雙燕濕、柳橋煙淡一鶯鳴

積文 莎徑泥深雙燕濕、柳橋煙淡一鶯鳴

(仇遠) 莎徑泥深うして双燕^{さうなん}湿^{うる}い、柳橋^{りゅうきょう}煙^{けい}淡^{たん}くして一鶯^{いちおう}鳴^なく
はますげの生えた小道は泥が多くて二羽の燕が泥をくわえ、淡い煙のたちこめた橋の柳に一羽の鶯が鳴く。
● 莎 はますげ (海辺に自生する草の名)。

雨添江樹十分緑、水漲沙溪一尺深

積文 雨添江樹十分緑、水漲沙溪一尺深

(李文潛) 雨は江樹^{かうじゆ}に添^そえて十分^{じゅうぶん}緑^{みどり}に、水は沙溪^{さけい}に漲^{みなぎ}って一尺^{いつしゃく}深^{ふか}し
江の樹に雨が降ってますますみどりが美しく、砂の溪流に水が満ちて一尺ほど深くなっている。

米芾 (章吉老墓誌)

不傳者洞視五藏不失毫
髮立仆起僵其妙崇寧

積文 不傳者洞視五藏不失毫
髮立仆起僵其妙崇寧

臨書のポイント 筆先の張りを強調し、収筆の部分の筆の動きを意識したい。

王鐸 (草書五律詩)

往虎丘不此甚蕭索祖
希時面行藥欲數處

積文 往虎丘不此甚蕭索祖
希時面行藥欲數處

臨書のポイント 線の動きと大小を見せる為の文字の位置を意識すると妙味が出る。

サイズ (タテ135×ヨコ35)

篆書

春草歌
夏雲生

行書

春草歌
夏雲生

隸書

春草歌
夏雲生

草書

春草歌
夏雲生

◆規定、随意とも古典に立脚して創意をして下さい。

※春草歌、夏雲生

読み 春草歌み、夏雲生ず
春の花が散り、夏の雲がわき起こる。

春草歌
夏雲生

A 部 (師範・準師範) ○木簡

恙 悲 苦
事 春 時

星 弘 道 臨



○釈文 恙甚苦事春時

○解説 木簡とは、紙が発明される以前に、書写された材料の一つで、石刻類に比べると、書としての新鮮さが感じられ、木簡発見の重要性は、考古的にはもとより、書法上でも非常に大きな影響を与えた。

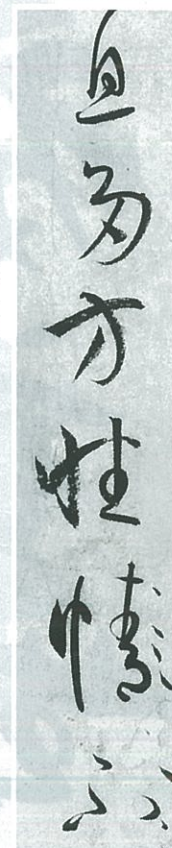
○今月課題のポイント

「時」が見えないが雰囲気と同じにして書いてあります。

B 部 (準師範格・七段) ○孫過庭・書譜

且 多 方
性 情 不 方

星 弘 道 臨



○釈文 息多方形情不

○解説 書譜は、撰書者である孫過庭の草書にかかる真跡草稿本で、駢儷文という美文体により、王羲之を典型に据え、漢魏以来の能書家を品第し、書芸術の価値および学書理念を論じた内容で、中国における代表的書論である。

○今月課題のポイント

「情」字を長くすると「不」の存在がなくなるので少し小さく書いています。

C 部 (六段・初段) ○王羲之・集字聖教序

有 玄 奘
法 師 者

星 弘 道 臨

D 部 (準初段・新人) ○虞世南・孔子廟堂碑

蜂 飛 蛸
起 羽 檄

星 弘 道 臨



○釈文 有玄奘法師者

○解説 集字聖教序は、懷仁が王羲之の行書を集字したものであり、その内容は、「聖教序」と、当時皇太子であった高宗の「述聖記」、そして玄奘の新訳になる「般若波羅蜜多心経」の三つの文章を併せ刻したものである。

○今月課題のポイント

全体のバランスが取れる部分です。大きくなり過ぎないようにしたい。



○釈文 蜂飛蛸起羽檄

○解説 中国・初唐の楷書の大家虞世南が、太宗皇帝の命により書した碑。太宗が儒教を保護し、長安の孔子廟を修理させ、その意義と文教宣揚を記念し国子監に建てさせた。

○今月課題のポイント

「起」のシンニョウが暢びやかに書けると全体感がよくなる。

解説

○今号も四字以上連綿を集字しました。
○この古筆の特徴は、連綿線が自在に変化することにあります。筆圧を抜いた細線、強い線で次へ繋げる線。または側筆などです。
○四字以上はリズムを心がけましょう。
○連綿は、続ける線を引く呼吸が大切です。また、順筆・側筆の連綿に注意して下さい。
○この課題は、基本学習用ですので、二級以上の者は、関戸本古今集から、一首以上を選んで、臨書し出品して下さい。参考原帖としては、二玄社刊「日本名筆選」が適当と思われます。

 みだれに 多 尔	 むら をりつれ 利	 みればあ 筆
 しとき 志 支	 むら をりて 利	 ほろ 僧正遍昭
 夜をあか 可	 とも 義 利	 あはれ 者 尔

かな部

条幅部参考(半切)

◎臨書部・条幅部・かな規定部の段級位は共通です。

日展理事 黒田賢一先生書

時鳥きく遠り二故曾夏山の青葉はは奈耳於とら佐利希連
時鳥きく折にこそ夏山の青葉は花におとらざりけれ(西行)

積文
(時鳥きく遠り二故曾夏山の青葉はは奈耳於とら佐利希連)
時鳥きく折にこそ夏山の青葉は花におとらざりけれ(西行)

※変体仮名のくずし方と、書き順に注意。
◎条幅部の課題はこの歌以外でも可。

日展理事 黒田賢一先生書

かな規定部(半紙)

6月29日締切

時鳥きく遠り二故曾夏山の青葉はは奈耳於とら佐利希連
時鳥きく折にこそ夏山の青葉は花におとらざりけれ(西行)

賢

積文
(本とと支春きくを利にこ處なつ山能青八、花尔おとら沙り希連)
時鳥きく折にこそ夏山の青葉は花におとらざりけれ(西行)

(布置・文字転換自由)

多諸儼從 而侍衛之 以是妙車 等賜諸子
諸子是時 歡喜踊躍 乘是寶車 遊於四方
嬉戲快樂 自在無礙 告舍利弗 我亦如是
衆聖中尊 世間之父 一切衆生 皆是吾子

B 後赤壁賦【趙孟頫】(六)

恐慄乎其不可留也 返而登舟 聽其所止而休焉 時夜將半 四顧寂寥 適有孤鶴 橫江東來 翹如車輪 玄裳綈衣 夜將半 四顧寂寥 適有孤鶴 橫江東來 翹如車輪 玄裳綈衣

積文 恐。懷乎其不可留也。返而登舟。聽其所止而休焉。時夜將半。四顧寂寥。適有孤鶴。橫江東來。翹如車輪。玄裳綈衣。恐。懷乎其不可留也。返而登舟。聽其所止而休焉。時夜將半。四顧寂寥。適有孤鶴。橫江東來。翹如車輪。玄裳綈衣。

解説 趙孟頫(一二五四～一三三二) 字は子昂、趙氏は北宋時代には傍流で不遇であったが、南宋の第二代皇帝の孝宗は彼の家系から入ったので南宋では皇族であった。以後元朝にも仕える。 彼の書はのびやかで美しくその価値は高い。近づきがたいとされた晋唐の書は彼によって消化再生されたといわれる。

◎細字部、実用書部の段級位は、一般規定の段級位で出品して下さい。

C 実用書

北海道三十五市

札幌 赤平 旭川

芦別 網走 石狩

岩見沢 恵庭

歌志内 江別

出品の際の注意・お願い

競書出品券が変わりましたが、集団長・出品者のご理解を得て、作品整理・審査も大方順調に済ませることが出来ました。

一 会員の出品点数が、多い人で9点、学生部は2点ですが、全国各地から送られてくる総数は一万六～七千点にも及びます。

これを種目別、段級別に区分け整理する為に、毎回大勢の委員の方々が当たっております。出品された作品ですから、丁寧に取り扱いながらしかも迅速に整理を行う重要な仕事です。ここで完璧な整理があつてこそ、審査がスムーズに進行出来るわけです。

五月の審査を終えた時点で、出品券等について気づいたことを記しますので今後ご留意願いたいと思います。

・出品券の段位は漢数字で、級位は洋数字で記入の徹底

大部分の出品者が励行されていますが、未だ級位を漢数字で書いた出品券があります。段と級の数字を区分けすることで、出品者自身の勘違いを防ぐことになり、又作品整理時の選別にも有効です。是非これを実行して下さい。

ただ、一部の集団で、低学年の半紙作品に洋数字で級を書かせているのがありました。作品は漢数字で書いて下さい。

・出品券の取り扱いについて

出品券のキリトリ線にそって、まわりをカットして下さい。貼る場所は、作品の左下角の位置です。出品券のバーコードを切り落して貼っている方が何名かいました。バーコードは絶対に切り離したり、汚したりしないで下さい。審査終了後の時点で、出品券は作品から切り離され、成績順に束ねられたものはそのままコンピュータの読み取りに入ります。ですから、バーコードを取ってしまったものは読み取り不能でアウトです。また、段級を誤記のまま審査を通過したのも、この読み取りの段階でハジカレてしまいますので、段級記入は正確に書いて下さい。

秋山 苔石

◎実用書部出品は、本会指定用紙(手紙課題用)を使用のこと。
◎支部名、段級、氏号は毛筆で記入のこと。

美しい音色

※美しい音色

星弘道書

土手の芝生

※土手の芝生

星弘道書

な平

※
平^{たい}
ら
な
道^{みち}

道ら

星
弘
道
書

青光

※
光^{ひかり}
る
青^{あお}
葉^は

葉る

星
弘
道
書

6月29日締切

主客

※
主_{しゅ}
客_{きやく}

星
弘
道
書

6月29日締切

実習白

※
実_{じつ}
習_{しゅう}

星
弘
道
書

6月29日締切

○幼年部課題は、一字書き(自由)で提出して下さい。

さか

※さか

星弘道書

6月29日締切

※玉虫

玉虫

星弘道書

(小1年)

(小2年)

(小3年)

(小4年)

あさがおのめが、
でてきたよ。
明日は朝から晴れ
るといいな。
開始時間ぎりぎり
にやって来た。
食事が終わって食
器を流しに運ぶ。

秋山苔石書

ペン・硬筆部用箋(C)

ペン・硬筆部用箋(C)

ペン・硬筆部用箋(C)

ペン・硬筆部用箋(C)

(小5年)

(小6年)

(中学部)

(一般部)

何事をするにも、けじめがいちばん大切で、けじめのない暮
ろはだらしない。暮ろがだらしないければ働けない。よい
知恵も生まれなず、ものも失う。(幸之助翁の言)
不審者が侵入したらしく、犬が
威嚇するように吠えている。
私は、正座が得意なので長
く座っていられる。
受付で会員証を提示する
よう指示された。

秋山苔石書

ペン・硬筆部用箋(B)

ペン・硬筆部用箋(B)

ペン・硬筆部用箋(B)

ペン・硬筆部用箋(A)

(小1年)
硬筆部用紙(C)

(小2年)
硬筆部用紙(C)

(小3年)
硬筆部用紙(C)

(小4年)
硬筆部用紙(C)

(小5年)
硬筆部用紙(B)

(小6年)
硬筆部用紙(B)

(中学部)
硬筆部用紙(B)

(一般部)
硬筆部用紙(A)

はたけに、すいか
ができています。

父の顔に、長いひげ
が生えています。

発表する人の方へ
体を向けて聞こう。

先生が宿題のプ
リントを印刷した。

水流に逆らって泳ぐのは、
とても体力が要る。

その報告書は、極秘に処
分されてしまったようだ。

単調な作業に嫌気がさし、集
力が欠如した矢先の事故だった。

集団行動は、常に共通の意識と行動が伴わなければ
成果は得られない。率先して共働する意識に欠ける人間
はその中に加わるべきではない。(幸之助翁)

次号課題予告

注意

一般部は、書体・書風・各行の字数
について自由とします。
。学生部は各行の字数を、手本と同じ
に書いて下さい。
。幼年部は、硬筆部用箋(C)の用紙
で、中央にたて八文字以内で一行に
し、文は自由です。

送料

。実費ご負担下さい。(六冊以下の場合
合は金額を事務局へお問い合わせ下
さい。)
。一万円以上は送料無料で。(筆との
合計でも可)

指定用紙

。硬筆部指定用紙(A)(B)(C)各一冊
(一〇〇枚綴)二〇〇円
。細字部指定用紙(A)(B) 各一冊
(一〇〇枚綴)三〇〇円
。実用書部指定用紙 一冊
(一〇〇枚綴)三〇〇円

。指定用紙を使用のこと。
。硬筆部の段級は、毛筆部とは別です。
。黒(インク・鉛筆等)を使用のこと。
。低学年で氏名がかな書きの場合でも
出品券は漢字で登録のこと。

競書課題解説

△一般部▽

春草歌、夏雲生 春の花が散り、夏の雲がわき起こる。

春

(篆文は、日十艸十屯) シュン。はる。

音符の屯は、むらがるの意味。草が日を受けて、むらがり生ずるさまから、季節のはるを表す。

(艸十早) ソウ。くさ。

艸と同一語であるが、その音を示すため、早が付された。艸は、くさの象形で、くさの意味を表す。

(欠十曷) ケツ。やむ・つきる。

音符の曷は割に通じ、切るの意味。仕事をうちきってやすむの意味を表す。

夏

(頁十白十欠) カ。ゲ。なつ。

頁は、冠や面を着けた人の頭の象形。白は、両手、欠は、両足の象形。冠などを着け、両手両足を動かして、みやびやかに舞う夏祭りの舞のさまから、なつの意味を表す。夏の季節の陽気のさまから、転じて、大きいの意味、大いなる国、中国の意味をも表す。

(雨十二) ウン。くも。

音符の云は、雲の回転するさまにかたどる。雲の意味を表す。

雲

(象形) セイ。シヨウ。いきる。うまれる。草木が地上に生じてきたさまにかたどり、はえる・いきるの意味を表す。

(参考文献 大修館「大漢語林」)

秋山苔石

主幹評

○墨量も良く少し横への動きが出たか。

4月27日締切

条幅部最優秀作品

傳漢彩運雅子侯門三任
龍荒松葉猶存雅意

師範 池田芳翠

起國尊清自慰恩裏
厚伏倚畔味今古香

師範 吉澤衡石

研主並高晩招飲月色佳大
劉川張曉峯右鶴九華介

師範 永藤窓風

而乃寄花因蝶作停地
頭緒事好幸而有三清筆

師範 岩井清華

海晏素書天候而雅子家
之名字家當心佳也

師範 香取玉龍

△学生部▽

中学二・三年部(土手の芝生)

3	一	十	土
4	一	二	三
5	一	二	三
6	一	二	三
7	一	二	三
8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三

中学一年部(美しい音色)

9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

小学六年部(光る青葉)

6	一	二	三
7	一	二	三
8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

小学五年部(平らな道)

5	一	二	三
6	一	二	三
7	一	二	三
8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

小学四年部(実習)

8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

小学三年部(主客)

5	一	二	三
6	一	二	三
7	一	二	三
8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

小学二年部(玉虫)

5	一	二	三
6	一	二	三
7	一	二	三
8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

小学一年部(さか)

1	一	二	三
2	一	二	三
3	一	二	三
4	一	二	三
5	一	二	三
6	一	二	三
7	一	二	三
8	一	二	三
9	一	二	三
10	一	二	三
11	一	二	三
12	一	二	三
13	一	二	三
14	一	二	三
15	一	二	三
16	一	二	三
17	一	二	三
18	一	二	三
19	一	二	三
20	一	二	三

○これ以上に誇張せぬようにしたい。

言味火攻骨下第水通月陰
傳今老如不樂生愁

師範 堀越恵泉

賈物之厚行儉崇之徳
登美非精家佳墨五五

師範 原 青丘

王上元也然春來何同人老
笑儂才如波流風便此

師範 東海汎山

板家即日過趙外長喜切
乃世之如此人多此老

師範 柴谷峰花

以矢達之端つるまきと存精
富貴皆能之能之消日

師範 鈴木宗美

4月27日締切

4月27日締切

主幹評

○墨量もあり表現が大きい佳。

為者也享年七十有九以終
聖丁丑四月九日卒于家妻

師範格 赤羽祐子

○開いた線が少々多い、弾力で書きたい。

遠信先友大鶴山人代復
教行非名他意也

師範格 勝 翠江

○運筆が少々速い、もっと遠まわりをする感じで。

釋此為江白理和芳羽此不
張之望海内一云不海

師範格 石垣比彩

○墨量不足で運筆速い為線が軽くなっている。

且佩西軒意子之為羽此不
張之望海内一云不海

師範格 平野都美

○筆の腹が少々見えるが、良い部分もある作。

尾山集里兄噴雪雪初
在櫻土正風一換生

師範格 原田有香

○筆勢もあり佳。この方向で書込みを。

生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘

師範格 白野伸子

○ゆるやかな明るい作。墨量はもっと入ってもよい。

釋此為江白理和芳羽此不
張之望海内一云不海

師範格 田中和子

○落着のある作、線も自然に書けている。

此雲霜飛三月冷中
原春到百花東

準師範 村岡春濤

○これに墨量が増えたとよくなる。

釋此為江白理和芳羽此不
張之望海内一云不海

準師格 佐藤貴克

○丁寧な作、これに勢がつくと更によくなる。

生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘

準師格 小田梗雲

生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
相行伴壽藤九疑雲生海
渺々不虞陵贈靜觀
釋此為江白理和芳羽此不
張之望海内一云不海
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
不願向他說事別要生此則時
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘

六 段 松尾溪風 六 段 樫村遊雲 七 段 山下豊海 七 段 關 徳哉 準教士 木所桂艶 準教士 穴戸魁山 教士 石橋瑞泉 教士 尾形琢瀧

生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
為者也享年七十有九以終
聖丁丑四月九日卒于家妻
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
間有鶴臨仙鶴洋大點綴絶
少此而漏極作名留意
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
為者也享年七十有九以終
聖丁丑四月九日卒于家妻
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘

二 段 大平春苑 二 段 池田 翔 三 段 三谷虎ノ 三 段 高橋芳雲 四 段 福原桃李 四 段 松田清城 五 段 渡邊佐保 五 段 菅原雪嶺

生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
南無上方有水頭山曲
折乃能到向別去水頭
為者也享年七十有九以終
聖丁丑四月九日卒于家妻
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘
生城柳暗誰家笛野
与雲深何處鐘

下 級 渡邊香仙 下 級 山川律子 上 級 松元陽園 上 級 平澤彩苑 準初段 山岸白道 準初段 物江憲雪 初 段 中里優吾 初 段 谷津千萩

4月27日締切

一般規定部

主幹評
○少し文字に窮屈感があるが強さはある。
○「日」字結体注意したい。大ききよい。

臨花暖 傍日香 初段 猪瀬香織

臨花暖 傍日香 三段 伊藤樹理

臨花暖 傍日香 五段 小堆鳳仙

臨花暖 傍日香 一級 大橋貞子

○配字一考するとよくなる。
○丁寧な作。墨量はもっと入った方がよい。
○緊張感のある線で結体も佳。
○表現が暢々している。「暖」字結体一考。
○下に空いたか、線を案に引くとよい。

臨花暖 傍日香 二級 山澤英伸

臨花暖 傍日香 準初段 富島テル

臨花暖 傍日香 二段 池田翔

臨花暖 傍日香 四段 高橋芭瑠

臨花暖 傍日香 一級 大橋貞子

○下に空いたか、線を案に引くとよい。
○これに墨が入ると更によくなる。
○線の強さがある。落款少々大きいか。
○ゆったりと明るい作。
○下が少々空いたが線質はよい。

一般随意部

臨花暖 傍日香 一級 平塚名

臨花暖 傍日香 初段 軽部奏月

臨花暖 傍日香 三段 伊藤樹理

臨花暖 傍日香 五段 武川玉榴

臨花暖 傍日香 二級 関諒

臨花暖 傍日香 準初段 金城照

臨花暖 傍日香 二段 池田翔

臨花暖 傍日香 四段 四元美香

○この作よい。この方向の線で書込みたい。
○表現大きく強い線質で佳。
○線の張り出し方向も意識するとよい。
○真面目な書きぶりですとまった作。
○一行目佳。二行目幅が広い。
○墨はもっと入れてもよい。行間広い。
○収筆に注意したいが勢いある作。
○二行目中心甘いが明るい作。
○結体がいまいとつだが、墨量ある作。

4月27日締切

一般規定部

主幹評
○少し文字に窮屈感があるが強さはある。
○「日」字結体注意したい。大ききよい。

臨花暖 傍日香 初段 猪瀬香織

臨花暖 傍日香 三段 伊藤樹理

臨花暖 傍日香 五段 小堆鳳仙

臨花暖 傍日香 一級 大橋貞子

○配字一考するとよくなる。
○丁寧な作。墨量はもっと入った方がよい。
○緊張感のある線で結体も佳。
○表現が暢々している。「暖」字結体一考。
○下に空いたか、線を案に引くとよい。

臨花暖 傍日香 二級 山澤英伸

臨花暖 傍日香 準初段 富島テル

臨花暖 傍日香 二段 池田翔

臨花暖 傍日香 四段 高橋芭瑠

臨花暖 傍日香 一級 大橋貞子

○下に空いたか、線を案に引くとよい。
○これに墨が入ると更によくなる。
○線の強さがある。落款少々大きいか。
○ゆったりと明るい作。
○下が少々空いたが線質はよい。

一般随意部

臨花暖 傍日香 一級 平塚名

臨花暖 傍日香 初段 軽部奏月

臨花暖 傍日香 三段 伊藤樹理

臨花暖 傍日香 五段 武川玉榴

臨花暖 傍日香 二級 関諒

臨花暖 傍日香 準初段 金城照

臨花暖 傍日香 二段 池田翔

臨花暖 傍日香 四段 四元美香

○この作よい。この方向の線で書込みたい。
○表現大きく強い線質で佳。
○線の張り出し方向も意識するとよい。
○真面目な書きぶりですとまった作。
○一行目佳。二行目幅が広い。
○墨はもっと入れてもよい。行間広い。
○収筆に注意したいが勢いある作。
○二行目中心甘いが明るい作。
○結体がいまいとつだが、墨量ある作。

4月27日締切

[illegible]

4月27日締切

[illegible]

4月27日締切

学生部

児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。	児童会役員の会議が、急に開かれることになった。
八郷 五年 五級 岡崎 歩	太全 五年 四級 石田 奏穂	洗谷 小五 二級 原田 虹太	蘭香 五年 一級 織田 夏鈴	珠香 五年 準初 中村 向葵	山原 五年 初段 棚原 羽美	可美 小五 二段 山西 沙知	香川 小五 三段 内海 優花	川 小五 三段 内海 優花	川 小五 三段 内海 優花

五級 岡崎 歩 四級 石田 奏穂 二級 原田 虹太 一級 織田 夏鈴 準初段 中村 向葵 初段 棚原 羽美 二段 山西 沙知 三段 内海 優花

母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。	母が軽い布団を用意してくれたい。
新入 加古 真帆	太全 四年 三級 深田 夏妃	意 四年 二級 帯刀 圓華	意 四年 二級 増子 奏音	意 四年 準初 佐川 心那	意 四年 初段 望月 友理奈	意 四年 二段 市原 琉愛	意 四年 二段 小林 愛子	意 四年 二段 小林 愛子	意 四年 二段 小林 愛子

新入 加古 真帆 三級 深田 夏妃 二級 帯刀 圓華 一級 増子 奏音 準初段 佐川 心那 初段 望月 友理奈 二段 市原 琉愛 三段 小林 愛子

音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。	音楽会は午前と午後の部がある。
香川 小二 二級 久富 凜子	野原 大二 一級 川田 あかり	野原 大二 一級 三原 あや音	光雲 小三 新 富塚 えい太	小三 五級 富塚 えい太	小三 五級 富塚 えい太	小三 五級 富塚 えい太	小三 五級 富塚 えい太	小三 五級 富塚 えい太	小三 五級 富塚 えい太

二級 久富 凜子 一級 川田 あかり 新入 三原 彩音 五級 富塚 咲太 四級 庄司 雅耶 三級 山西 知香 二級 中谷 咲良 準初段 半澤 怜奈

百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。	百年前は、ここも野原だった。
かみ 六年 新 田中 美遥	はな 六年 仲山 享佑	あさ 六年 中山 茗涵	あさ 六年 金井 崇偉	あさ 六年 成澤 怜	あさ 六年 飯田 玲鳳	あさ 六年 和田 仁茅	あさ 六年 四蔵 架音	あさ 六年 四蔵 架音	あさ 六年 四蔵 架音

新入 田中 美遥 七級 仲山 享佑 五級 中山 茗涵 四級 金井 崇偉 三級 成澤 怜 新入 飯田 玲鳳 五級 和田 仁茅 四級 四蔵 架音

4月27日締切

一般部

おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。
可美 六級 橋本 英二	結実 七級 久保 谷 浩香	太全 準教 照井 菜々	新 教士 桑名 正娟	玉山 準師格 土田 君峰	小山 準師 大橋 春草	墨流 師範 木下 和庭	墨流 師範 佐藤 珠苑	墨流 師範 大橋 春草	墨流 師範 佐藤 珠苑

六級 橋本 英二 七級 久保 浩香 準教士 照井 菜々 教士 桑名 正娟 準師格 土田 君峰 準師範 大橋 春草 師範格 佐藤 珠苑 師範 木下 和庭

おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。	おたがに辛抱と寛容の精神が大事である。辛抱と寛容の心がなから、愚痴と不満ばかりが湧いて、心に暗くなるばかりで、この世の住みにくさを嘆くだけであらう。
新入 飯塚 樹水	流 六級 小田 野修二	景陽 一級 萩沼 清子	錫田 準初 皆藤 可道	長 初段 大木 素鳳	長 初段 大木 素鳳	長 初段 大木 素鳳	長 初段 大木 素鳳	長 初段 大木 素鳳	長 初段 大木 素鳳

新入 飯塚 樹水 六級 小田 修二 一級 萩沼 清子 準初段 皆藤 可道 初段 大木 素鳳 二段 世嘉 良康 三段 今井 梓沙 四段 青木 薫

兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。	兄は四月からの新しい高校生活に胸を膨らませている。
板橋 中一 五級 新堀 結菜	千代 中二 一級 渡辺 陽菜	玉心 中二 四級 野原 愛花	可美 中一 五級 竹山 千陽	所沢 中一 六級 飯村 圭吾	光雲 中二 優待 金井 彩葉	香川 中二 準特 横山 紗佳	新星 中二 特待 成田 望愛	新星 中二 特待 成田 望愛	新星 中二 特待 成田 望愛

五級 新堀 結菜 一級 渡辺 陽菜 四級 野原 愛花 五級 竹山 千陽 六級 飯村 圭吾 優待生 金井 彩葉 準特待 横山 紗佳 特待生 成田 望愛

その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。	その土地で作られた伝統工芸品を土産に買う。
蘭香 六年 五級 寺田 帆花	六全 六年 一級 西野 璃虹	花 六年 二段 木下 紗那	可美 小六 三段 野田 璃来	水戸 六年 四段 益子 菜摘	千代 六年 五段 石塚 葵	青丘 小六 六段 大下 史華	所沢 小六 七段 近藤 有羽	所沢 小六 七段 近藤 有羽	所沢 小六 七段 近藤 有羽

五級 寺田 帆花 一級 西野 璃虹 二段 木下 紗那 三段 野田 璃来 四段 益子 菜摘 五段 石塚 葵 六段 大下 史華 七段 近藤 有羽

第二二回 競書成績表

平成三十年四月二十七日締切分

入賞者で賞状を希望される方は指導を受けている先生にお申し込み下さい。個人会員の方は発表後毎月十五日以内に自己住所氏名明記の返送封筒（B4版、二二〇円切手添付）と、氏名掲載頁のコピーを同封の上請求下さい。（期間経過、返送封筒なき場合返付しません）

師範

[illegible]

準教士

[illegible]



静岡玄燿社 第二十一回展 開催報告

事務局 大石 清吉

平成三十年五月三日から六日まで静岡市民ギャラリー展示室にて、学生展も併催して開催致しました。心配していた天気も朝には晴れ、心地よい搬入が出来ました。大型連休の中、飾り付けの最中から多勢の参観者がみえて下さり大変嬉しく思いました。会員の平均年齢が高くなり、出品者数は減少して参りましたが、会場は明るく爽やかな五月晴れのようになりまし

た。学生展もカラフルに軸装され、ご家族おそろいで訪れて頂いた参観者の方々も笑顔が絶えず、中央に飾られた星先生の作品に、皆さん動くのを忘れ、見入る場面もありました。瞬く間の四日間でした。

六日の懇親会は、星先生・今井先生を囲んで親しい時を過ごさせて頂きました。御来場頂いた方から「年々作品が良くなっている!」という御言葉も頂戴いたしました。一日一日が反省。また次に向け、精進したいと思えます。皆様の一層の御指導を御願致します。

お忙しい中、御来場ご臨席頂きました先生方に、この場をお借りして厚くお礼申し上げ、開催報告とさせて頂きます。

この度、念願の合宿に初参加させて頂く事が出来ました。割り当られた大ホールに入って緊張と不安で一杯でした。二泊三日、可能な限り書き込みの専念出来ました事、星先生による添削の時は自分の作品が墨量も書き込みも足りないかが歴然とし、更に大作に取り組んでおられる先生方の筆の運び、墨の入れ方、緩急の取り方等々、沢山の事を間近に学ぶ事が出来ました。星先生はお一人お一人丁寧に接して下さい、温かいアドバイスと励ましを頂き、詩文の意味を心に留めながら、一筆一筆に魂の入った作品となる様に取組む事を教えて頂き、課題も頂きました。辞書を片手に熱心に研究して話し合っておられる姿等目にしながら、又若い世代のエネルギーを感じた時もありました。書に専念出来る場を設営下さった諸先生方に、又寸暇を惜しんでの星先生のご指導に心より感謝申し上げます、来年もこの所に参加をさせて頂きたいと思いを新たに帰る事が出来ました。

今回、初めて熱海での錬成会に参加しました。会場の大広間には集中して書けるよう、すでに立派な設営がされており感動しました。ご指導くださった星先生、会場をご設営くださった諸先輩方に感謝致します。ありがとうございます。有意義な時間を過ごすことができました。

開講式での先生のお言葉の中で感銘を受けましたのは、「うまい字というのは、書き込んで自分の中で咀嚼してその人となりの字というのが自然に出てくるものだ」ということでした。筆の持ち方、使い方という技術的なものだけでなく、よく書き込むことも重要であると改めて思いました。ご指導の中では、調和体作品は漢字作品よりも自由度が高いということを教わりました。

ご指導いただいたことを糧に「うまい字」が書けるよう、今後も毎月の競書課題、そして、展覧会作品に精一杯取り組んでまいります。

読売合宿錬成会に参加して



千葉
佐久間 春苑

熱海合宿に参加して



大阪
須藤 秀光



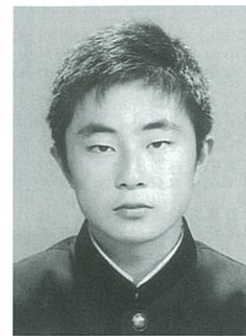
茨城・江南支部
舟橋 望



沖縄・龍玄支部
我如古夢稀



茨城・伯雲支部
佐藤 愛莉



茨城・明支部
稲葉 琉斗



愛知・真翠支部
志知萌々花



静岡・双葉支部
山田 桃彩



東京・板橋支部
宮本 侑奈



茨城・基心支部
長森 龍生



茨城・基心支部
松田 十希



千葉・星群支部
広田 莉紗



茨城・珠香支部
瀬出井紅葉



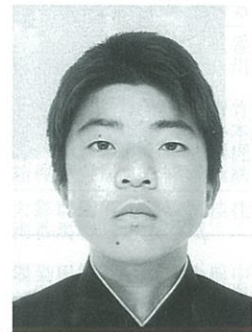
茨城・蘭香支部
小川 拓也



茨城・蘭香支部
佐久間朱里



岩手・岩手支部
村木明日香



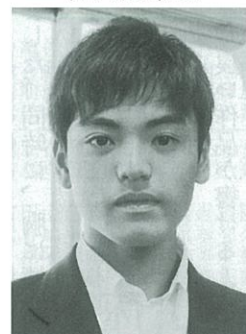
静岡・双葉支部
田邊 威琉



埼玉・青龍支部
新妻 美月



埼玉・青龍支部
堀米 桃子



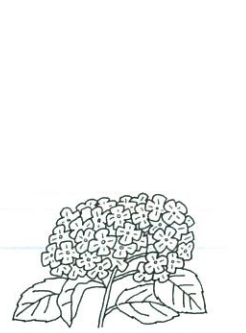
静岡・可美支部
小川 稜平



静岡・可美支部
原 朱音



静岡・佑美支部
尾田 幸葉



静岡・湧水支部
望月瑚乃海



茨城・光喜支部
平塚 名



茨城・真支部
薄 愛乃



埼玉・青龍支部
堀米健太郎



インスタ映えする書

また、中村不折の書が注目をあびている。注目されている、というよりは人気となっていると形容すべきなのであろう。

口火を切ったのは三省堂の国語辞典の編纂者である飯間浩明氏である。台東区根岸の書道博物館を訪れ、陳列品について「大してインスタ映えもしないので、写真撮影はご遠慮下さい」と注意をうながす貼り紙に興味をひかれる。

ユーモラスなその文言と、書かれた書体の面白さに、メモ用紙に模写し、帰宅後清書し、その画像と共にツイッターに投稿された。

昨年の十一月六日のことである。すると大きな反響を呼び、十一月八日までにフォロアーが一万一〇〇〇を超えたという。

今年に入り、飯間さんは、朝日新聞Be紙の「街のB級言葉図鑑」にもこの経緯を紹介された。一月六日のことである。

注意書きの貼り紙の作者は、書道博物館学芸員中村信宏さんで、中村不折の書体をイメージしながら書いたのだという。「隸書の変形のような書体がユーモラスで、実に味わいがあります」と飯間さんはいわれる。

中村不折は、皆さん良くごぞんじの様に、書道博物館の創設者で、本来、フランスに画学生として留学までした洋画家であったが、生来の書道好きが昂じて、書の名品を手広く蒐集、かたわら書家としても鳴らした。

不折の書は、飯間さんが「隸書の変形のような書体」と表現される特異な書である。不折は楊守敬により日本に持ち込まれた北派書道の申し子であった。

書の鑑賞室 172

呉昌碩臨〈散氏盤銘〉

中村 伸 夫

今日では、中国古代の青銅器の銘文（金文）による作品が、公募展などでも盛んに出品されているが、金文で書かれた作品を揮毫することは、この種の書体が生まれ育った紀元前の時代からすれば、何千年も経過した後にはじまったことである。金文に関する研究には、宋代以来の長い歴史的蓄積があり、特に清代においては、考証学の進展にともなって、多くの成果があげられた。それらは主として、字解や釈読を中心とする研究成果で

占められており、その目的は、歴史や思想や言語などの学術領域における新たな史料として確立させようという点にあった。

このような状況の中で、書としての金文という概念は、いわばそれらの研究に携わった人々の余技の領域において、徐々に萌芽をみるに至ったものと想像される。この間の事情を探るためには、礼器の銘としての特異な性格を帯びる金文というものの、に対する当時の人々の考え方、また、史料の普及

前秦・広武將軍碑や北魏・中嶽嵩高靈廟碑に発する独特な構えの書風だ。明治四一年に不折が制作し出版した「龍眠帖」が、その趣好を表す代表作であろう。そして、「龍眠帖」の広武將軍碑などにもとづく奇怪な書風は、西欧の印象主義や野獣主義に影響されたからではあるまいか。

森鷗外や伊藤左千夫の墓石題字に求められたほど、不折の書は歓迎された。新宿中村屋看板も不折である。姿の面白さが受けた。

この不折の書風に反発し、真つ向から反論したのが、当時京都帝国大学教授であった内藤湖南である。明治四四年三月二六日の大阪朝日新聞に、湖南は「北派の書論」を投稿する。新聞の一面すべてを埋めるほどの長文の論であった。そこで、湖南は、阮

元に始まり康有為に至る北派書道の欠陥を指摘した。湖南の主張するところは、つまるところ、王羲之こそ書道の正宗であって、王法の敷衍、継承の上にしか書法の展開はない、と強く主張するものであった。いま京都国立博物館に蔵される上野本十七帖の跋で、世間がいかように北派書道に加担しようとも、自分は一途に王法を信じ、その普及を目論見、「右軍の僕役」となりたいと湖南はいち切っている。

不折が、書を美術の一環として扱い、デザイン主義に傾く論を立てるのに対し、湖南は、書はあくまで書であって、書法の歴史の延長線上に書の鑑賞や制作は考えられるべきだと主張する。

この、不折と湖南に代表される書の本質をめぐる見解が、今回のインスタ映えする書の流行に計らずも出て来ているのではなからうか。

や拓本の流通の問題など、様々な要素を総合して考察しなければならぬだろう。

とにかく、金文には三千年以上の歴史があるが、金文の書かれた作品という事になれば、せいぜい二百年ほどの歴史しかない。しかも、遺されている作品の大部分は臨書である。ここにはその一例として、西周後期の〈散氏盤銘〉（紀元前九世紀）の冒頭二十字を臨書した呉昌碩（一八四四―一九二七）の作品を掲げた。

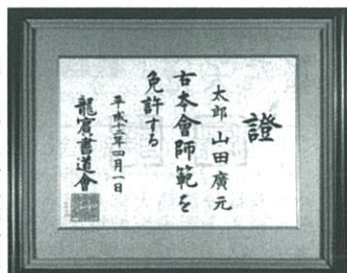
先ごろ開催された「呉昌碩とその時代―苦鉄没後九十年―」に、師の楊見山が揮毫した呉昌碩四十七歳時の潤例表「缶廬潤目横披」が展示されていた。すでにそこにも「祇篆書を作し、分隸は

応じず」と書かれていたが、何といっても呉昌碩の書といえば篆書であろう。しかも〈石鼓文〉の臨書が彼の十八番のようになっていて、事実その作例が圧倒的に多い。反面、金文の臨書ということになると、その例は決して多くない。西

『資格認定証』について

師範認定証

資格証



認定証
清流 高山 澄子
列準初段
平成元年五月一日
龍泉書道会

認定証（送料実費）
三〇、〇〇〇円
師範認定証（大型額入り特装）
二、〇〇〇円
一般有段者
一、〇〇〇円
一般有級者
五〇〇円
学生部
【申込方法】
氏名、雅号、段級、昇格時期（何年何月号）、学年（受験時）電話番号、指導者名を書いた申込書と昇格を証明できる頁のコピー（氏名に赤線）を送り下さい。

通信教育部入会のご案内

月会費
半紙部 五、〇〇〇円
条幅部 八、〇〇〇円
送付手本
半紙部 半紙一〇枚、半切縮小三枚、条幅部 半紙一〇枚、半切実寸一枚（誌末掲載）
◎主幹の直接添削を月一回受けられます。
◎公募展において、門人に準じた扱いを受けられます。
※半紙部は初段までとします。（条幅部は初段以下でも可）
※添削は半紙部が半紙4枚、条幅部が半紙4枚と半切3枚までとします。
※詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

周期の金文としては、異体字あるいは誤字とされるものが多く、右肩さがりの特異な作風で書かれている〈散氏盤銘〉は、金文の中では彼がもっとも好んだものであったとされ、いくつかの作例が現存している。

「矢の散邑を戮てるに用って、廼ち散に用田を即ふ。眉は濡よりし、渉りて以って南し、大沽に至る。節臨散鬲、壬戌冬、呉昌碩、年七十九。」「壬戌」すなわち中華民国十一年（一九二二）、七十九歳の冬の一筆である。銘文には、西周王朝の支配下にあった矢という国の王の大臣が、となりの散という国の土地を荒らした償いとして、境界をさだめて散に土地を与えることを取り決めたことが記録されている。この作品はその冒頭部分を、筆の操作が困難なほどの濃墨を使って揮毫したものであるが、潤筆と渴筆が織りなす味わいに満ちた深い線質が印象的である。〈石鼓文〉の温習による熟達した運筆の妙は、この特異な造形をもつ金文においても発揮されている。

『揭示板』

第三十五回 読売書法展 東京展

八月二十四日(金)～九月二日(日)

・第一会場 国立新美術館 (火曜日休館)

・第二会場 東京都美術館

○八月二十五日(土) 授賞式 十二時

・懇親会(ザ・プリンスパークタワー東京)

主催 読売新聞社・読売書法会

第四十六回 日本の書展

◎関西展

・五月三日(木・祝)～五月五日(土・祝)
・マイドームおおさか

◎東京展

・六月十四日(木)～六月二十四日(日)
・国立新美術館

主催 (財)全国書美術振興会

後援 文化庁

第十八回 龍寶選拔書展

●日時 八月二十二日(水)～八月二十七日(月)

午前十時～午後六時

初日は午後一時開場

最終日は午後四時終了

●会場 セントラルミュージアム銀座

読売展・龍寶展 作品締切日

五月二十七日(日) 午前十時～十二時

郵送の方は、五月二十四日(木) 必着の事

事務局

日展について

○研究会 五月二十四日(木)

六月二十一日(木)

○作品提出 七月十九日(木)

※作品提出日が例年より早くなっております。

第二十三回 全日本高校生・大学生展作品募集

◆出品料 無料

◎高大展

・作品サイズ
二尺×八尺、二六尺×六尺
四尺×四尺、全紙

◆高・大展示は臨書作品が可能です

◎本部/切は六月二日(土)(必着)

第十三回 全日本小中学生展

・作品サイズ 半切

◆作品には必ず小五、中三等の学年と名前を書くこと。

◎本部/切は六月二日(土)(必着)

※作品送付の際、封書に「全日本学生展」と朱書して下さい。

わたしの教室のホープさん (130)



小2・2級 須藤 健吾さん



小4・1級 殿岡 大和さん



小6・3級 小林 優月さん



小6・5級 嶋島明日香さん



小6・2級 小幡莉子さん
小4・2級 小幡紗子さん

健吾君が書道を始め丁度一年です。教室では「書道は正しく美しい形と基本点画が大切。」という事を日々の稽古でしっかり学んで来ましたが、持前の集中力の高さもあり、学校での書展入賞も重ね、今年の書作院展学生臨書展において、優秀作品にも選出されました。「もっと上手になりたい。」と言う彼に、更なる成長を期待します。

大和君は入会して書道、硬筆共、新入から一級まで(一回の一番をのぞいては)すべて一番で昇級しました。教室では、一枚一枚心をこめて書き込み、提出時には見事な作品になっています。「書道を好きになってくれてありがとう」これからの成長を楽しみにしています。

宮城・宮城支部 末永 瑞鳳

優月さんの六年生の目標は、茨城県小中学校美術展に入選することです。目標に向かって集中して頑張る姿からは「上手になりたい」という気持ちがよく伝わり、私もその気持ちを持ち続けることの大切さを、教えてもらっています。学校でも、最高学年として活躍できるよう応援しています。

茨城・珠香支部 大塚 珠香

明日香ちゃんは二年生の夏に仲良し友達姉弟と入会し、ほとんど休む事なくお互いに切磋琢磨し頑張っています。いつも真剣に一生懸命取り組む姿勢は立派です。隣りで親友と学べるからかも知れません。応援してくれるお母さんも上達を喜んで見守って下さりこれからの活躍が楽しみです。

茨城・新星東海支部 間宮 清風

二人の真剣に取り組む姿に感心させられています。入会当初は、まだあどけない二人でしたが、心身共に成長していると窺い知ることができ、嬉しく思っています。書道は、決しておおげさではなく、人間形成に大きな影響があると信じて、心して指導にあたっています。どうぞ、これからも頑張ってください。

茨城・新星支部 山内 香鶴

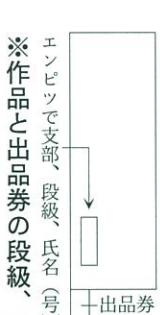
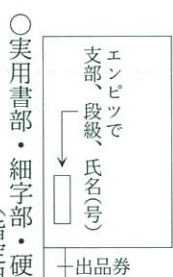
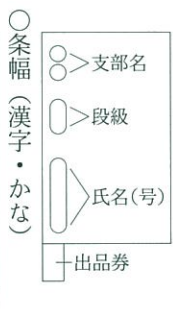
競書出品規定

- 1、本会に作品出品される方は、本部に会員登録をする必要があります。
- 2、月例競書のすべての出品作品には、本会指定の出品券に記入、貼付(作品左下)して下さい。出品券が貼付されていなかったり、提出月や部門が違えば審査対象外となり没書とします。
- 3、幼・小・中学生で、兄弟で入会の方は、家族出品券(六ヶ月分、一、八〇〇円)で出品できます。
- 4、課題違いや段級未記入の作品は、審査の対象外となり没書とします。
- 5、競書出品締切日は、毎月月末指定日です。それ以降の遅着作品は、審査対象外となり没書とします。
- 6、硬筆部、細字部、実用書部は、本会指定の用紙を使用した作品が審査対象となります。
- 7、新規出品者は、出品作品に「新入」と記入して出品し、次月からは編入された級を記入して出品します。
- 8、※他会からの編入制度を設けております(有料)。
- 9、月例競書では、氏名(号)上に「〇」がある方が昇級となります。
- 10、中学卒業後は、一般部へ編入手続きをして下さい(無料)。
- 11、規定・随意・臨書・条幅・細字・実用書各部の段級は共通です。(漢字部)
- 12、かな部と硬筆部は、それぞれ別段級で、漢字部とも異なります。
- 13、半紙出品作品は、半紙判(タテ33センチ・ヨコ24センチ)白紙以外の場合、写真版になりません。
- 14、条幅部は、小画仙半切(タテ135・ヨコ35)の大きさとなります。
- 15、条幅部とかな部以外の各部は、作品の左に支部名(地名)、段級、氏名(号)を毛筆で書すことが審査の基準となります。(小一以下は級・名前のみでも可)かな部と条幅部は、作品の左下部にエンピツで、支部(地)名、段級位、氏名(号)を楷書で丁寧に書いて提出して下さい。
- 16、会誌に掲載する支部(地)名は、二文字まで、氏名(号)は四文字までとなります。五文字以上の場合には、発表可能な文字を指定して下さい(作品には略さず揮毫のこと)。
- 17、月例競書作品(遅着作品を含む)は返却しません。月例競書審査に対する異議は受け付けません。

出品要領

○半紙(規定・随意、臨書と学生部)

○半紙(かな部・かな臨書部)



添削規定

- 添削の希望者は、本会並びに添削担当先生が添削指導しますので、直接希望の先生に依頼して下さい。
- 添削を受ける方法
- 1、返信用切手貼付の封筒(宛名明記)を同封して下さい。
- 2、臨書作品は、法帖のコピーを同封して下さい。
- 3、添削料金(現金か小為替で)
- 条幅(半切) 一、〇〇〇円
- 半紙 五〇〇円
- 硬筆 五〇〇円
- 肉筆 五〇〇円
- 添削料金は、昇格試験の場合にも同額です。
- 添削は、毎月五日から十五日の間に依頼して下さい。

肉筆手本について

- 肉筆手本希望者は、添削担当先生(現金か小為替で)へ毎月十五日迄に直接申し込んで下さい。
- 1、返信用切手貼付の封筒(宛名明記)を同封
- 2、支部名、段級、氏名(号)と、希望手本を明記の上、手本代を同送して下さい。
- 3、肉筆手本代

半切条幅	七、〇〇〇円
半紙	七〇〇円
硬筆	七〇〇円
肉筆	五〇〇円
硬筆	五〇〇円
肉筆	五〇〇円

※細字実用書部、かな臨書部については受け付けません。

添削担当先生(二〇一八年六月号)

※印は、かな部担当(敬称略)

石毛 如水 315	茨城県石岡市正上内10-5
椎子 紫峰 430	静岡県浜松市遠州浜3-38-3
清華 710	岡山県倉敷市日吉町300-7
※岩井 紫香 187	東京都小平市小川町4-26-11
近藤 溪石 311	茨城県小美玉市田木谷617-2
杉浦 弘承 421	静岡県静岡市駿河区広野4-30-6
東海林 汎山 010	秋田県秋田市広面字釣瓶町37-4
森 草坡 249	神奈川県逗子市池子3-3-5
山藤 秀翠 300	茨城県つくばみらい市谷井田190-20
田畑 梢映 332	埼玉県川口市元郷2-15-2
塚原 彩香 323	栃木県小山市西城南1-8-68
伊野前 美秋 901	静岡県浜松市東若林町101-1
中道 琴翠 432	静岡県浜松市東若林町101-1
城間 紅玉 902	静岡県静岡市駿河区用宗4-6-26
遠藤 江月 421	静岡県静岡市駿河区用宗4-6-26
小野口 悠萌 309	茨城県笠間市鯉淵13
沼田 文龍 313	茨城県常陸太田市瑞龍町898
林 洸華 156	東京都世田谷区松上水3-15-13
※大山 紫萩 902	千葉県那珂市安里150-5
瀨川 象元 277	千葉県那珂市大井100
柳澤 蒼葉 315	茨城県石岡市小倉514
木村 栄翠 300	茨城県土浦市手野町275
賤機 由美 420	静岡県静岡市葵区千代田3-7-14
篠原 芳秋 270	千葉県八千代市萱田234-40
島袋 涼園 902	千葉県那珂市真地459-2
杉岡 曉雲 962	福島県須賀川市塩田字飯塚153-1
中村 春溪 202	東京都西東京市住吉町6-13-26
長山 素龍 312	茨城県ひたちなか市松戸町2-11-6
茂木 聖心 311	茨城県行方市手賀404
山根 草香 232	神奈川県横浜市中区南太田1-23-2
吉水 泰石 315	茨城県八郷町柿岡150
伊藤 智峰 307	茨城県結城市結城912-18
塚本 翠芳 114	東京都北区西ヶ原4-14-13
工藤 紫紅 314	茨城県鹿嶋市平井130-93
樋口 英岱 399	長野県諏訪郡富士見町境606-2
林 夕霞 289	千葉県葉巻香取郡東庄町笹川イ665

平成30年度（第21回）読売書法展熱海合宿研修会

於 ホテル大野屋 4月20日（金）～22日（日）



主幹による丁寧な個別指導



開 会 式



広々とした会場で書き込む方々



主幹による丁寧な個別指導



最終選別のひとこま



最終選別をする主幹と本年度審査員

次号課題予告

7月30日締切

一般随意部（行） 風吹絮 波颯 小学六年部 朝の 大気	一般随意部（草） 風吹絮 波颯 小学五年部 白 空け	一般随意部（行） 風吹絮 波颯 小学四年部 方 法	一般随意部（行） 風吹絮 波颯 小学三年部 川 風	一般随意部（行） 風吹絮 波颯 小学二年部 花 火	一般随意部（行） 風吹絮 波颯 小学一年部 生 まれ 故郷
--	---	--	--	--	---

読売展の練成会も無事終了致し、参加の皆さんの作も見違えるようでした。適切なアドバイスと書込みが如何に大切かよく解ります。来年の日程も決まったようですので早目から日程の調整をしておいて下さい。

連休中の月例審査会ですが審査員一同真剣に皆さんの出品作を審査していました。

出品券の変更も皆さんの協力のもと順調に推移しております。多少張り間違いがあるようですが総体的には影響はないようです。

新緑の好季書込みには絶好の季節です。佳い作品を御待ちしております。

〈編集後記〉

〇昨年よりも多くの参加者があつた読売展合宿錬成会の写真が掲載されています。

主幹の直接のご指導に感激し、今後も参加したいとの声にうれしい限りです。来年も同時期の四月十九日（金）から二十一日（日）です。今から予定表に入れて下さい。

〇月例競書の出品に際し、条幅部・規定部・随意部など各部

門ごとに分けて、更に上位から下位へと順に並べて送付して下さい。作品を整理する上で大変助かります。よろしく願います。

〇臨書部課題、B部の書譜の臨書を出品する方は落款を草書で書いて下さい。本文にあう落款は大切なことです。

〇読売展、龍賓展の締切も間近です。又、かな・硬筆部等昇試の締切もあと少しとなりました。毎度申し上げますが、送付に際しては封筒の表に朱書で「、、在中」と明記して下さい。

〇龍賓学生誌上展の締切は六月十二日（火）です。期日をおまもり下さい。

〈光基〉

●段級誤記の作品は、正規段級の成績最下位に記載となります。

●課題違いや段級未記入は没書となります。

●六月の締切は、二十九日（金）です。（遅着は没書）

龍 賓 第十九巻 第六号
平成三十年六月一日発行

編集兼 星 弘 道
発行人 龍 賓 書 道 会
発行所 龍 賓 書 道 会
事務局 〒一〇一〇〇五二
東京都台東区柳橋二一六十四
ハンドバッグ会館五階
電話〇三（五八三三）六七三二
FAX〇三（五八三三）六七三二
郵便振替口座 〇〇一九〇一八二六五九〇
印刷所 株式会社リンクス

誌代 1ヵ月	680円
3ヵ月	2040円
6ヵ月	4080円
1ヵ年	8160円

※上記は税・送料込の金額です。
 ◎毎月15日までに前納して下さい。
 ◎納入済みの誌代等は返金致しません。

▶個人速達の場合
 上記金額に月々280円を加算
 (例：6ヵ月なら4,080円＋1,680円)

●作品と出品券の段級に違いがないようにご確認を。

●漢字部の段級でかな部、硬筆部に出品しないで下さい。

◇払込の際、送金種別・内容を必ずご記入下さい。

◇ご不明な点は、お気軽にお問い合わせ下さい。

ホームページURL <http://www.ryuhin.jp>
 E-MAIL アドレス mail@ryuhin.jp

墨苑彩苑



插花 宏道流家元 望月義瑄

花材 カラー・アナナス・かすみ草



私たちは「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録を
応援しています。

平成十二年三月十四日第三種郵便物認可
平成三十年五月二十日印刷納本
平成三十年六月一日発行

(毎月一日発行)

【龍 寶】

第十九卷

第六号

(通卷二二二号)